

保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2011年
2月25日(金)
第28号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

幼保一体化ワーキングチーム開催 基本問題へのつぎはぎ手当

2月24日、新システム第7回幼保一体化ワーキングチームが開催され、「幼保一体給付（仮称）の具体的な制度設計について（案）」が事務局より提案されました。1月24日の政府案に対する批判が噴出したことから、一定手当していますが、市町村の保育実施義務の解体、直接契約制という制度の根本が生み出す問題点につぎはぎの手当であり、実効性が問われる矛盾に満ちたものになっています。改めてなぜ「新システム」にするかが鋭く問われます。主な点を見てみます。

応諾義務と選考

施設には「正当な理由」ある場合を除き子どもを受け入れる応諾義務を課すとしているが、「正当な理由」として、①定員に空きがない場合②定員以上に応募がある場合（選考になる）③特別な支援を必要とする場合の受け入れ体制がない場合をあげている。選考は国が定める選考基準に基づき行うとし、一人親家庭、虐待の恐れのあるケース、③の体制がある施設は特別な支援が必要な子を優先的に選定するとしている。制度はあくまで民間と民間の直接契約であり、様々な理屈付けで施設側が選択する事は可能であり、どこまで強制力を発揮できるか極めて疑問。

市町村の関与

虐待事例など特別な支援が必要な子どもなど、市町村が利用調整を行い施設をあっせんする。それ以外の子どもについては、市町村に利用希望を出し、市町村が利用調整を行い施設をあっせんする。契約による利用が著しく困難な場合は、市町村が施設に措置するとしている。市町村の役割は、あくまで施設の紹介・「あっせん」であり、待機児童が多い地域では施設側の選択が横行することは防げない。

公定価格の設定と上乗せ徴収

価格設定は、質の確保・向上が図られる人員配置基準や設備基準をもとに、人件費、事業費、管理費等を踏まえて費用算定。施設の規模による経費の違い、地域別の人件費等の違いを考慮した定員規模別、地域別の価格設定。施設の減価償却費も算定。特別な教材費や制服代などは実費徴収を認め、その範囲や施設ごとの上限額の基準を定める。少人数学級、幼稚園から大学までの一貫教育などでは上乗せ徴収を認める。低所得者には国が定める基準に従うことを要件に補足給付を行うとしている。所得に応じた応能負担から利用時間に応じた応益負担に変え、所得の低い層を中心に負担増になることは必至であり、保育料も地域別・施設別に違う複雑な体系になる。上乗せ徴収が出来るのは、批判の前に当分の間、市町村や社会福祉法人以外に限るとしているが、価格の自由化への流れは強まらざるを得ない。公定価格に減価償却費を含めることは、価格の押し上げとなると共に、株式会社の施設建設に税金投入を可能にするものとなる。

保育を守る全国連合会 新システム反対 2500人規模集会

日本保育推進連盟が中心となって準備をしている「子どもの育ちと保育制度を守る全国研修会」が、3月23日（13：00～16：30 資料代 2000円）に日比谷公会堂で開催されます。主催「保育を

守る全国連合会)、共催「九州保育団体連絡協議会、北海道保育三団体、保育を守る全国実行委員会(東北地区・関東地区・北信越地区・中部地区・近畿地区・中四国地区)」となっています。

「集会趣旨」では、「社会的要請に逆行するような『幼稚園と保育所の一体化(児童福祉の後退)』や『保護者と園との直接契約』(保護者の自己責任の強化)、また『株式会社等の参入促進(児童処遇および職員処遇の低下)』など、『子育てサービスの産業化』(経済産業省『産業構造ビジョン』より)」をめざす『子ども・子育て新システム』の検討および法案化が政府により進められています」、「真に子どもと家庭を守り、子ども本位の保育を実現するためには、児童福祉法第24条の趣旨を堅持して現行保育制度を拡充・発展させることこそが必要です。主として都市部における待機児童問題もそのなかで解決されるべきです」とし、「子どもの育ちと保育制度の行方に関心や危機感を持つ全国の皆様、子ども本位の保育を保障する制度のあり方を共に考え、学びましょう」と呼びかけています。

保育新システム反対2・20兵庫保育大パレード 600人のラップ、三宮商店街に響く

2月20日、兵庫自治労連保育部会や福祉保育労、兵庫県保育所運動連絡会、尼崎市職労で構成する兵庫保育パレード実行委員会が、兵庫から「保育新システム反対」の声を全国に発信しようと兵庫保育大パレードを行い、主催者の予想を超える600人の参加がありました。

神戸市役所花時計前に集合し、替え歌「保育をまもるぞ 桃太郎」とラップ調のシュプレヒコールの練習のあと、多くの人でにぎわう日曜日の三宮の商店街をパレードしました。

全員がイメージカラー「イエロー」で手作りのキャップや飾り物、プラカードに風船、ピカチュー、くまのプーさんの着ぐるみや獅子舞も登場。パレードでは、太鼓、ピアノカ、歌とラップで「保育新システム反対」の声を思い切り商店街に響かせました。



大丸百貨店前での宣伝カーのリレートークの訴えでは、実行委員会会長の増田百代さん(兵保連)が「『子ども・子育て新システム』をめぐる、反対の声はますます高まっている。廃案にさせるまでガンバロー」と情勢報告。福祉保育労・橋本賀永子さんは「介護保険制度のように問題ある仕組みを導入させてはならない」。西宮市職労の保育士・金岡里佳さんは「自治体責任を後退させては良い保育はできない」。尼崎の若いお母さん荒木陽香さんは「新システムでは保育料が上がり生活できない」。川西の保育士さんたちが「みんなで反対の声を上げていこう」と振付パフォーマンスでアピールしました。

大丸百貨店前から元町商店街への広い範囲に展開して「保育新システム」反対のビラ配布と署名のお願い行動でイエローのみんなで地域を圧倒しました。(「自治労連速報」2/23第664号より)

【傘下の組織や保育関係者に配信・配布してください。配信希望者は氏名と所属、「保育闘争委ニュース希望」と明記し、パソコンよりメールでお申し込みを。内容を圧縮した「携帯メールニュース」は携帯からメールでお申し込みを】